

令和2年度 第1回 荒尾市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和2年9月29日(火) 午前10時～午前11時45分

2. 場 所 荒尾市役所 11号会議室

3. 出席者	荒尾市長	浅田 敏彦
	荒尾市教育長	浦部 眞
	荒尾市教育委員	境 民子
	荒尾市教育委員	西尾 直子
	荒尾市教育委員	渡邊 義専
	荒尾市教育委員	旭田 國浩
(オブザーバー)	副市長	田上 稔
	荒尾第一小学校校長	西嶋 徹
(事務局職員)	総務部長	石川 陽一
	文化企画課長	中山 創
	総合政策課長	田川 秀樹
	総合政策課政策推進室長	奥村 猛
	総合政策課政策推進室担当	丸本 真由子
	教育審議員兼学校教育課長	永杉 尚久
	学校教育課指導主事	大塚 真史
	学校教育課指導主事	成瀬 典子
	学校教育課指導主事	溜渕 知昭
	教育振興課長補佐兼学務係長	畑山 鉄也
	教育振興課教育政策係長	吉村 麗月
	生涯学習課長	宮脇 浩司
	生涯学習課社会教育係長	馬場 理恵子

4. 傍聴者 無し

5. 議事

- (1) 荒尾市教育振興基本計画に基づく令和元年度の取組状況について
- (2) 今年度重点的に取組んでいる施策について
- (3) 新型コロナウイルス感染症に係る取組状況等について

6. 議事経過の概要

以下のとおり

○議事経過の概要

1. 開会

田川総合政策課長が、開会の宣言、配付資料の確認を行った。

2. 市長あいさつ

浅田市長が、あいさつを行った。

- ・未だ全国的に猛威を振るい続けているコロナウイルスは、本市においても、7月から8月にかけて感染者が相次ぎ、小学生の感染者も確認された。今後、再び流行する可能性もあることから、十分な対策を検討し、どのような環境下においても子どもたちが継続して学べる環境を提供していかなければならない。
- ・今年度から教育に関する重要なテーマを議事に設けて、そのテーマについても協議調整を行っていく。

3. 議事

(1) 荒尾市教育振興基本計画に基づく令和元年度の取組状況について

資料1に基づき、基本目標ごとに数値目標の達成状況と成果、主な課題と改善方針について、宮脇生涯学習課長、永杉学校教育課長、中山文化企画課長が説明を行った。

<主な意見等>

浅田市長

中学校の全国学力・学習状況調査正答率が全国平均を下回っているが、中学生の学力の分析結果について教えていただきたい。

→全国平均は上回れなかったものの、前年度よりも差は縮まってきている。また、無答率の割合が減少しており、10ポイントから一桁に下がっている。

意識調査では、勉強が分かるかという問いに対して「分かる」と回答した割合は、国語が67ポイントから78ポイントに上昇、数学が60ポイントから73ポイントに上昇している。課題としては、英語については「分かる」と回答した割合が低く、全国との差が8.8ポイント、県との差が6ポイントであり、英語が好きではない生徒が多いので増やしていかなければならないと考えている。(永杉課長)

浅田市長

全国平均には届かないものの、差は縮まってきていることから、現場の先生方の努力に感謝したい。英語については、英語教育研究の指定校である中央小学校で、英語を学んできた子どもたちが中学校にあがったときと、同じ経験をしてきていない子どもたちが中学校にあがったときの英語力の差はあるのか。

→三中は中央小学校出身の子どもたちが多いため、他校出身

の子どもたちとの意識の差はあるかと思うが、学習内容は小学校と中学校で大きく異なり、中学校は知識理解、小学校は表現を重視してある。そのため、小学校で英語を学んできていても中学校では難しくなる。小学校と中学校のつなぎをどうしていくかが今後の課題だと考えている。(永杉課長)

浅田市長

ICT 教育について、本市では桜山小学校がモデル校として ICT を活用した授業に取り組んでいて、県教委や市教委からは学力面等において非常に良い効果が出ていると伺った。本市の ICT 教育では、研究結果を踏まえて段階的に各学校に広げていく予定だった。しかし、国の GIGA スクール構想により、今年度中に、一度に一人一台のタブレットを導入することになった。一度にタブレット端末を導入することについては、学校現場でも戸惑いがあると思うが、現時点での準備の状況等について教えていただきたい。

→現時点では、端末の機種は確定していないが、桜山小学校で既に導入している端末は Windows、今度導入する端末は iPad を予定している。機種は違うが、学習指導内容としては、その機器を使った情報提示に効果があること、教材内容を焦点化したり視覚化したりできることなどについて、桜山小学校で研究してきた成果を共有することができる。今後、その研究会を各中学校校区で行うこととしている。また、ICT 支援員の拡充、導入を行う事業者の方に、各学校で使用方法の指導を依頼する予定である。(大塚指導主事)

(2) 今年度重点的に取り組んでいる施策について

資料 2 に基づき、今年度の学校教育における重点施策及び生涯学習における重点施策の新規事業の説明を、永杉学校教育課長、畑山教育振興課長補佐、宮脇生涯学習課長、中山文化企画課長が説明を行った。

<主な意見等>

旭田委員

青少年国際交流事業について、各学校の代表はどのように選ばれるのか。

→各中学校の 2 年生のクラスから 1 名ずつ、合計 11 名の選出を考えている。(中山課長)

浅田市長

青少年国際交流事業の財源には、荒尾子ども未来基金を活用している。本市の未来を担う子どもたちに、世界に視野を広げ貴重な経験をしてもらうためである。これまでの寄附額は約 3,600 万円であり、個人、企業、団体から幅広く寄附をいただいている。寄附者の方々にも、このような事業に活用

させていただいているということをお伝えしたい。

渡邊委員

最近の子どもたちは表現力が伸びていると感じる。弁論大会や童話発表会以外にも、もっと子どもたちが表現できる場を用意できれば良いと思う。

以前あった英語のスピーチ大会はいまも実施されているか。→いまも中学校において英語スピーチ大会を毎年実施している。今年度はコロナウイルスで実施できなかったが、教育フォーラムの中で中央小学校の子どもたちにスピーチや劇等の英語学習活動の発表をしてもらう計画を立てていた。(永杉課長)

境委員

世界的な変化が速く、昨日のことが今日は通用しないような世の中の流れになってきているように感じる。大人の責任は、蒔いた種を育てる(人材育成)ということではないか。中学生のテスト結果についても、種を育てる意識の欠如があったのではないかと思う。なぜなら「教科」という枠に囚われて、学習の進め方や目標がそれぞれの教科ごとに任されており、学校全体でゴールを見据えるということが欠如していると感じる。小学校では、あらおベーシックなどに基づき学校全体で共通理解を深めてきた。一方、中学校では、教科ごとに担当の先生が分かれることから、学校全体としてではなく、個々の目標を目指すことだけになってしまっていないか。そうなると、授業や生徒指導に対する責任感が薄まることが懸念される。

今年度重点的に取り組んでいる施策において、行政はICT環境整備事業を進めていくが、学校現場はこれからがスタートである。大変だと思うが、先生方が前向きな気持ちで、子どもたちと一緒に使いこなしていけるようになって欲しい。人間の持つ力を削がずに、便利なものを上手に使いこなしていくことが大切だと思う。

浦部教育長

これまで教育委員会では、小学校から中学校までの9年間を見据えた人づくりを考えていたが、今は、就学前から高校までを見据えた人づくりをしていくことが、教育委員会の仕事であると考えている。第6次荒尾市総合計画においても、保育園・幼稚園や高校との連携まで含めた幅広い人づくりを目指していくこととしている。その中で、学校教育・社会教育に力を入れていく必要がある。

ICT教育については、今の世の中の流れとしては当然進めていく必要があるが、大きな目標は人づくりであり、ICT教育はその達成のための1つの手段である。ICT教育やあらおベーシックを推進してきた成果として、生徒たちの表現力が向上してきていると考えている。また、将来の荒尾市の理想を見据えた教育を進めていかなければならないと感じている。

旭田委員

先日、第四中学校の体育祭で、コロナウイルスにより制限がある中でも、子どもたちが精いっぱい頑張っていたのを拝見した。生徒会長をはじめ、生徒たちが力強い掛け声を出して、子どもたちを応援したいと心から思った。

(3) 新型コロナウイルス感染症に係る取組状況等について

資料3に基づき、新型コロナウイルス感染症に係る取組状況等について、永杉学校教育課長から説明を行った。

<主な意見等>

西尾委員

今後、コロナウイルスが再流行した際の準備については何か考えておられるか。

→新型コロナウイルス感染症対策事業として、人数分の段ボール仕切りやマスク、消毒液などの準備をしている。また、臨時休業を踏まえ、重点的に指導する内容を示した指導計画を市独自に作成している。(永杉課長)

4. その他

その他として、議事以外のことに関する意見交換を行った。

また、田川総合政策課長が、今年度の総合教育会議は2回の開催を予定しており、次回は2月頃に開催する旨を説明した。

<主な意見等>

渡邊委員

第6次荒尾市総合計画を見て分かるように、荒尾市への定住者が増えない理由としてあげられるのが、「子どもの教育環境が充分でないから」である。また、中学卒業後に荒尾市に残る割合は30%程度しかいない。更に今は中学校でさえも荒尾市を選ばない保護者が増えてきていると思う。小学校は、あらかべーシックなど特色のある教育に力を入れられているため魅力を感じるが、中学校、そして岱志高校については魅力を発信できているのか。

→定住者が増えない理由としては様々な要素が重なっている。このような状況を打開するために総合計画があり、将来像に向けて様々な政策を推進している。その中でも教育面については非常に重要なテーマであり、子育て世代のニーズから、経済面の支援、教育の充実を推進していく必要がある。岱志高校については、魅力づくりに向けたアイデアを案出してもらうために、岱志高校の生徒によるワークショップを実施したところである。来月には、岱志高校の先生方や保護者など大人たちで、同様のワークショップを開催する。このような新しい取組みも、総合計画に基づき実施している。(田川課長)

浅田市長

中学校については、浦部教育長の下、それぞれの学校の特徴を活かしてオンリーワンの学校づくりを目指しているため、市としてもサポートしていきたい。岱志高校の生徒数減少については、県立ではあるものの市としても大きな課題である。随時意見交換を行いながら、どのような魅力づくりができるか検討している。広報あらかの中、定期的に市内高校の取組みを紹介しており、岱志高校は理科部の研究なども頑張っているため、ぜひアピールしていきたい。

また、渡邊委員のご指摘のとおり、高校を卒業する際に、地元就職する人が非常に少ない状況である。市としても地元への就職に力を入れたいと考えており、地元に残る子どもたちを残していきたい。

私が市長になったときの一番の公約は、人づくりに力を入れるという点である。教育は施設の改修なども含めて不足している点もあるため、今後も教育に力を入れていきたい。

境委員

例えば、岱志高校や荒尾市の良いところを子どもたちで発見し、発信していくことで移住者も増えていくのではないだろうか。そのような子どもたちの姿を見ていき、そして、自信を持って社会へ出ていけるような子どもたちを育てていくことが、私たち大人の仕事だと思う。

ところで、計画は途中で見直しできないのか。いつも思うが、確かな学力は重点施策にすべきである。確かな学力というのは、テストの点だけのことを言うのではなく、「学ぶ力をつける」という意味もある。

他自治体にできることは荒尾市でも出来るという前向きな気持ちで、風土づくりをやっていけたら良いと思う。

→計画自体の変更は可能であるが、現在、来年度にかけて新しい教育振興基本計画を作成中であるため、ご意見等があればご相談いただきたい。(田川課長)

旭田委員

過去には荒尾市内の中学生の素行が良くない時期もあり、保護者が行かせたくないと思うのも理解できた。しかし今は、教育委員会や先生方が様々な対策を講じられたことで改善され、そのような話は耳に入ってこなくなった。むしろ、地域に出てボランティア活動をする生徒が増えてきている。また、良い学校にするには、リーダーである校長の気持ちが重要であり、それが保護者にも伝わっていくと思う。

浅田市長

7月豪雨の際に、関川の近隣住宅において約350世帯が浸水被害にあった。また、台風10号の際には1,800人程避難された。多くの学校が避難所になっていたが、各学校の校長先生にご配慮いただき、体育館ではなくエアコンの入っている教室に避難させていただいた。快適に避難できたこと多くの市民の皆さんから感謝の声が届いた。ご配慮いただき改めて

感謝申し上げたい。

西尾委員

子どもたちの様子を見ながら、大人の言葉かけ1つで子どもたちが自信を持ち、前向きになれるというのを感じた。どんな言葉を子どもたちにかけてあげれば、その子が一步踏み出せるのか、大人たちの言葉の学びが重要だと思う。大人は子どもたちの良いモデルとなるため、大人の意識改革もどこかでできればと考える。子どもたちには、こんな大人になりたいという目標をもってもらいたい。そして、一度は荒尾市から出て、いつか戻ってきて荒尾市に貢献したいと思うような大人になってほしい。

浦部教育長

高校の魅力づくりについては、教育委員会としても連携していくが、以前出会った二人の母親の話を紹介したい。別々の会場でお会いした母親だったが、どちらの母親も「私は子どもを荒尾市の学校に通わせたい」と言っていた。この二人の母親に接点はなかったが共通点があり、生まれ育った場所が荒尾市以外の方だった。荒尾市がとても住みやすいまちだと言ってくれ、もっと荒尾の良さをアピールしていく必要があると思った。

浅田市長

本市のまちづくりで力を入れていることは、人づくりともう一つ、いま、競馬場跡地に中心拠点を作ろうとしており、そこには多くの人が集まり、健康的で幸せを実感できるようなまちにしていきたいと考えている。また、最先端の技術を活用して、より便利により快適に暮らせるまちにしていきたい。荒尾市に住むことで、安心感や利便性の向上を実感できる、住むなら荒尾が良いと思ってもらえるような、魅力あるまちに全力をあげて取り組んでいきたい。

5. 閉会

田川総合政策課長が、閉会の宣言をした。